



1997年11月

発行責任者 木下 眞

第2号

所在地 町田市相原町1241番地

広報委員会発行

☎電話 0427(74)8705

「自由時間都市」 相原を目指して！

理事長あいさつ

木下 眞

私たちの住む「相原」をもっと歩いてみませんか。思いのほか広く、深いんです。そこには、色々なものの発見や存在に驚きを新たにさせられます。

野鳥や草花などの自然の世界、伝承された伝統と文化、郷土史の世界が埋もれています。

相原には大きな施設や高層のビルなどはありませんが、5年前から町田市が提唱している「自由時間都市」としての相原を考え直す時期に来ていると考えられます。

「自由時間都市」とは、たとえば文化、スポーツ、娯楽などの一連の活動を一般的に「余暇活動」と呼ばれています。まず最初に労働時間がありその合間の「余った」「暇な」時間として「自由時間」があるという認識です。労働時間よりも大切な時間が、「自由時間」と考えてみたい…。

今、相原にとって必要なことは、自由時間をもっと積極的に考えてみようという姿勢です。

「住んでよく」「訪ねてよく」「働いてもよい」まちを目指して、相原まちづくり協議会では行動を開始しました。

まず我が街を知る為に、大地沢から、多摩境まで踏査します。地図や案内標識を作成し、相原を知って貰う手立てとします。自由時間の手段としての、グリーンツーリズム（週末農夫）、クラインガルテン（憩いの農園）等の導入について学んで行きます。エコロジーとしての、ゴミや焼却問題、ダイオキシンや二酸化炭素による環境汚染の事や、都市交通問題等々、しなくてはならない問題が山積しています。今後各テーマについての講演会、勉強会を計画しますので皆様の積極的な参加を期待します。

「明日の相原を考える会」の頃からまちづくりが多くの人達で考えられていましたが、平成5年に駅周辺は区画整理でまちづくりを行う都市計画が決定され、地域では戸惑いや期待が交錯するなかで時が流れています。さらに、相原駅の橋上化や東西が行き来き出来るように旧道にトンネルを設け、踏切の交通渋滞を解消しようとしています。

さらに、相原中央スポーツ公園建設、境川流域改修が検討されています。

しかし、「まちづくり」と一口にいても範囲がひろすぎて、どこから手をつけて良いものかと思案するばかりで、なかなか先が見えてきません。そこで相原のことを良く知ることにより、何か大きなものが見えてくるような気がします。

これこそが「まちづくりの源流」ではないかと考え、そこから、相原に埋もれた歴史的遺産や自然資源の掘り起こしをしようという活動が始まり、仲間の交流が深まり、新しい発想が生まれ、具体的な行動になりつつあります。

今後、地域の歴史的遺産や、自然を探索し、勉強することにより、相原の歴史マップや案内標識などを設置し、相原のまちが本来もっている価値をもっと他の地域の人達にもアピールすることが大切だと考えています。

この度、私が理事長代行を仰せつかり、相原の「まちづくり」に微力ながら努力したいと考えております。

今後とも皆様方のご協力をお願いし、私の挨拶とさせていただきます。

住みつづきたい まちだから

この数年、相原の周辺ではいろいろなことが計画され、牛の歩みさながら、実現され具体化されつつ進んで来ています。住みよいまちへの変貌は、みんなの希望や願望どおりにはいかないものが多いのは昔も今も変わりません。ものの見方の違いから、えてして反対のものが出来上がったり錯覚からかたんでもないものができたりするの当たり前かもしれませんが。例えば相原駅周辺に絞ってもいろいろな意見、考え方があります。

踏切の問題も地下道を作って車や人が下を抜けて行く案で進んでいるようですが、トンネルの処から線路を持ち上げて、町田街道を電車が超えて行く案だって技術的には不可能でない聞いております。ただ経費的には多くなり、投資効果があまり無いとか、でも街道に沿った店舗や住宅にはあまり影響の無い方法であり歩行者にとっても歩きやすいし、道路拡張にも工事しやすいのではと言う人もいます。

駅の橋上化も地域にとってメリット、デメリットがどうあるのかを検討する必要がありますのではないだろうか。

現在のままの西口常時使用の方が有り難いとか、建設するなら高齢者の為にも上りだけでなく、下りのエスカレーターかエレベーターがつかなければとか、市の公共施設の入った駅ビルが欲しいとか聞かれる。

現在の定期券購入者や、駐輪場の常時使用者は神奈川県民の方が半数以上と聞けば、南側に改札口を移転し、大学生や通勤客向け商業施設と飲食施設の拡充と安全な通学道路の確保が出来たら嬉しいと言う意見もある。

町田街道にしても拡幅されて通過道路となつて、相原の住民にプラスになる部分よりもマイナスになる部分の割合が多いと気になる地権者もいます。

街全体の発展に、前向きになる為の犠牲と譲り合いは当然のことと理解して協力して行く訳ですが。

何かもう少し、もう一つの不安と不満で前進出来ないのが、今までの相原でした。何か企画しても具体化する前にいろいろな理由から反対されて中止になったことが多かった町だとも聞いています。

もっと未来の為に、子供たちの為に積極的に具体的に提案し、行動して行きませんか。試行錯誤しながらも、古くからの歴史と散歩したくなる道筋に花や緑も溢れ、鳥の声もやさしく、CO2ガスや騒音も少なく、道端にゴミもない、水の流れも綺麗で、大きく伸びをして深呼吸出来る自分たちの相原町にしてみませんか。



仲間になって みませんか

街の二階三階の窓から花や植木が飾られ、一寸洒落たレストランや、日本料理が庭で食べられる店、皆が集まるイベント広場、子供や大人と一緒に泳げるプール、今の相原にないもの、足りないもの、下水道から都市ガス、CATV等々種々あります。そのためにも行政に反対するだけでなく、行政側に知恵：希望を出し、都や市が作るものには、将来に禍根を残さないためにも、もっとハッキリ希望、計画を発言しなければなりません。

守るものは守り、残さなければいけないものは残し、捨てるものは捨てて、住民主導の行政参加型で、いつまでも住んでいたい街を作るまちづくりに参加してみませんか。

区画整理も道路計画も下水道も、まだ十年余も掛ります。まだ間に合うことが沢山あります。皆で考える仲間になって議論し行動してみませんか。まちづくり協議会に声をお掛け下さい。会員になってください歓迎します。

2008年からの 手紙

拝啓

久しぶりに相原を訪れて驚きました。新しくなった欧風の瀟洒な駅を出ると時計はちょうど10時を指し、相原のシンボルとも言える「からくり時計」が、たくさんの人形たちを踊らせながら、賑やかに時を刻んでいました。眼を下に移すと「贈・相原保善会」と銘が打ってあったのは、なにかの記念でしょうか？駅前ロータリーにはバスが数台乗客待ちし、タクシーが入れ替わり立替わり忙しそうでした。真ん中には、延寿会の人たちが植えたというサルビアの花が眼に眩しく飛び込んできましたよ。遠くをみると木々の緑は昔のままで、葉っぱが、そよ風に揺れキラキラ輝いていてほっとしました。

その時、南口の方の木々の間を路面電車がチンチンと走り抜けて行くのが見えました。昔の人たちが、騒音と排気ガスのない「エコ・タウン相原」を考えた交通手段を敷設してくれたのはすごい先見の明がある。相原の人は環境問題に早くから取り組んでいたのだと感心しました……。そんな事を思いながら、左側を見ると、きつと町並みが整備され、さすが昔の人たちが「緑、みどり」と騒いだけあって、しっかりと緑は残されていますね、家々がゆったりと佇んでいて、すばらしい景観ですね。

駅前広場やメインストリートには、花で飾られた建物が建ち並び大勢の人々が行きまわっていました。一番印象に残ったのが、「相原ガーデンプレイス」と書かれたゲートです。石畳が敷かれていて、つつい足がこちらに進んでしまいました。ゲートは緑青が噴き、遠くで見るより味わいがあるものですね。ぶらぶらしていたら、どこからとも無くコーヒーの香りが漂って来て、つい引き込まれてしまいました。店の雰囲気は丁度16号沿いの御殿峠のカフェに似て、店の中には、手回しのオルガンや、大型のオルゴールがあって、一瞬中世ヨーロッパにきたような錯覚に陥りました。



店をでると法政や家政学院の女子大生が数人横一列になって、相原産の牛乳で作ったというアイスクリームを舐めながらの光景は軽井沢そのままでしたよ。

建物を眺めると焼き過ぎレンガが貼られ、木枠の窓は花で飾られ、通る人達の眼を楽しませてくれます。店は金属で作られた唐草模様の看板が並び、アーケードの替わりにそれぞれ個性のある日除けが掛けられているなんて洒落ていますね。

また親子ずれが、「ママ、この町ってディズニーランドみたいだね。この通りは自転車も車も通らないからゆったり歩けるね、ママ」と、話していました。この町は人に優しい町に変わりつつあるようです。

イベント広場にはストリートミュージックが自由に演奏され、優雅で楽しいムードが醸し出され、道行く人を魅了させていました。

通りを一本隔てると、雰囲気は一変し、昔の街道を思い出させてくれました。遺跡めぐりや散策が出来る、舗装されていない土の道でかたわらに名も知らぬ花がボクを優しく迎えてくれました。つい口ずさむ「この道はいつか来た道…」ここで育ったボクは、ふと、母を想いました。

今僕がすんでいる都会の真中から、この町に引っ越しして来たくなるような魅力ある町に替わっていますよ。今度来る時は相原駅から大地沢まで歴史ウォークをやってみたいと思っています、ご一緒に歩きましょうよ。またお目に掛る事を楽しみに。

今、愛媛の 小さな町で

内子(うちこ)町。ここは愛媛の県都松山よりバスで約1時間ほどの山合いにある人口1万2千人の町で、ちょうど相原と同じくらいの規模、環境です。まちづくりを町民が積極的に取り組み全国でもよく知られた町です。

この町は3本の川の合流地点にあり、その流域の農産物の集散地として、また、金比羅参詣や四国遍路などの交通の要所として栄え、江戸末期から明治にかけては、和紙と木蠟の生産で繁栄を極めた所です。往時の歴史的環境は今に残され町民の誇りであり、昭和57年に「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されたのを機に町並み保存運動が盛り上がり、保存に対する理解と協力によって現在に至りました。劇場「内子座」をはじめ多くの民家、商家が修理、復元されナマコ壁や白壁の美しい町並みが形成され町全域の景観づくりの運動がなされています。

* 景観行政

内子町には、まだ自然環境や歴史的環境が多く、そうした地域資源を生かし、保存と創出を図ることが「真の豊かなまち」になると、新たな動きが始められたところ。

ここには、豊かな森、森には小鳥の囀りが山に響き、岩からしみ出た水がせせらぎを生み、やがて清流となり、滝となり魚が遊ぶ。川面も見えないほどに葦が生い茂り、また、護岸のために石積みではなく、数十年の先を夢見て、まちづくりの会員がもみじの苗木を植えている。石畳地区では橋に屋根の掛かっただけの屋根付き橋も有名。一方、麓川を舞台に、美しい自然の川を未来に残そうと「水車小屋」を復活させ景観づくりに役立っています。

平成4年度からは、「景観行政」を全町に推進し、バス停留所、公衆便所、不燃物置場、案内標識、看板などの公共性の高い施設は、美しい町並み創生にふさわしいデザインを取り入れ、平成8年度には環境基本条例を制定されています。

郷土と言えば柿。柿が学名でも「カキ」といわれ、日本が本当の原産で、日本人は柿の風景を見るとホッとすると思います。それは原風景とって、子供のころにこの風景を見て育っているからなのです。人にやさしいまちこそ、目指す街づくりではないかと思えます。

* 今必要なもの

今、商店は物売るだけではなく、「おもてなし」という観点で迎え入れることが大切ではないか。そして、個々に表現し合っただけで商店街が「連」となって連なり、そこで買い物をする楽しさと言うものをどう演出していくかが課題でしょう。

やはり、町並み保存も経済力と同時進行でないと地域に活力も生まれてこないと思えます。

相原でも独自性を持ってまちづくりが進めばいいと思います。21世紀は「旅」の時代といわれますが遠くてもいいものがあって、胸が締めくもものがあつたらまた行きたくくなります。このような、豊かな自然と文化、伝統と歴史の町、「内子」の地域に根ざした、まちづくりが「相原」に必要ではないかと思う。

編集後記

真夜中に
想う2号は夢の中… 幸雄
夢うつつ
つくづく想った2号かな
忠司
寝ないで、作ったアイトピア
寝ても作れぬ、2号かな
賢一
深夜しらふのワープ叩き
目覚めて空く2号かな 郁也

一年半のご無沙汰でした。まちづくり相談所が発足してから、時は流れて行きました。でも相原の町はあまり大きな変化はありませんが、協議会の動きは少しずつ前向きに進みつつあります。毎月3日の定例理事会も欠かさず行われ、活発な会議になって来ました。さて、「あいとびあ第2号」如何ですか、聞き馴れない言葉が沢山出てきますが今後勉強しながら話題提供したいと思えます。2008年は相原駅ができて100年目に当たる年です。この頃迄に駅周辺を始めとする、相原のまちづくりが序々に進み、整備されていけば、いいなと思ひ、将来の姿を描いて見ました。